

小児の漢方薬 服用について

わからないこと・不安なこと・疑問点などは、かかりつけの医師・薬剤師にご相談ください。

監修：日本経済大学大学院教授 赤瀬 朋秀

ツムラ医療用漢方製剤では小児用量を規定しておらず、医師が一人ひとりの年齢・体質・状態に合わせて用法・用量を設定し、処方しています。医師・薬剤師の指示通り、正しく服用しましょう。

ツムラ漢方製剤エキス顆粒(医療用)の用法・用量

通常、成人1日量を2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。
 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 ツムラ医療用漢方製剤添付文書より

成長は個々で
異なります



年齢区分(おおよその目安)

新生児 乳児
1歳未満



幼児
7歳未満



小児
15歳未満

・新生児：出生後4週間未満 ・低出生体重児：体重2500g未満 (WHOのレコメンデーションによる)

【参考】小児用量は次の量を標準とする。「一般用漢方処方の手引き」(厚生省薬務局監修)

2歳未満 成人用量の1/4以下	4歳以上7歳未満 成人用量の1/2	7歳以上15歳未満 成人用量の2/3
--------------------	----------------------	-----------------------

2歳以上4歳未満 成人用量の1/3

詳細は各製品の添付文書をご参照ください。

●小児薬用量については、年齢と体表面積で設定する「Von Harnack表」「Augsberger計算式」なども知られています。

通常の飲み方・飲ませ方 / 保管

困ったときは、医師・薬剤師にご相談ください。(裏面も参考に)

服用のタイミング(目安)

食前



食事の1時間~30分前
(胃の中に食べ物が入っていないとき)

または



食間



食事の2時間後(食事と食事の間)

参考 食後：食後30分以内(胃の中に食べ物が入っているとき)
厚生労働省・政府広報オンラインより

医師の指示どおり、
決められた分量・回数・期間を守って服用しましょう。
食前または食間(空腹時)に、水または白湯(さゆ)で。



飲み忘れに注意!

もしも飲み忘れてしまったら、気づいた時点で、すぐに1回分を服用。
 次の服用まで2~3時間しかない場合は、1回お休みしてください。
 次の服用からは忘れずに飲みましょう。2回分を一度に飲んではいけません!

保管に注意!

薬の保管は、冷所や湿気の少ないところに。
 とくに再分包されたものは吸湿しやすいので、
 湿気に強い密閉容器に入れ、できれば乾燥剤を使って
 保管しましょう。

再分包されたものは
吸湿に注意



新生児
乳児
1歳未満

まずは通常の飲ませ方で、意外と嫌がらないこともありますし、慣れさせることも大切です。小さな口に入れる方法やどうしても飲めない場合は下記を参考に。

飲み方・飲ませ方の工夫

- 1 白湯(さゆ)に溶いて、スプーンで飲ませる。
- 2 白湯(さゆ)や水でよく練り、頬や上あごの内側に塗布したり、スポイトなどで流し込む。
- 3 服薬補助ゼリーやシロップ(甘味)などを使う。
- 4 一度に1回分を服用できない場合は、4~5回に分けて飲ませる。



清潔な手で頬や上あごの内側に塗布



スポイトなどで流し込む



注意

- ハチミツは、生後1歳未満の乳児に与えないこと。乳児ボツリヌス症の危険性があります。(厚生労働省HP)
- 母乳の場合、漢方薬の成分も乳汁中に移行します。特に大黃・麻黄などの生薬には注意しましょう。



哺乳児の下痢を誘発

大黃に含まれるアントラキノン誘導体

下剤に用いられる配糖体

大黃の1日量中含有量(3g以上)のツムラ漢方製剤

- [84]大黃甘草湯 4g ● [126]麻子仁丸 4g
- [61]桃核承氣湯 3g ● [105]通導散 3g
- [113]三黃瀉心湯 3g

哺乳児に興奮やほてりを誘発

麻黄に含まれるエフェドリン

中枢神経刺激作用や交感神経興奮作用で知られる

麻黄の1日量中含有量(3g以上)のツムラ漢方製剤

- [28]越婢加朮湯 6g ● [27]麻黄湯 5g ● [85]神秘湯 5g
- [52]薏苡仁湯 4g ● [55]麻杏甘石湯 4g ● [78]麻杏薏甘湯 4g
- [95]五虎湯 4g ● [127]麻黄附子細辛湯 4g ● [1]葛根湯 3g
- [2]葛根湯加川芎辛夷 3g ● [19]小青竜湯 3g

ツムラ医療用漢方製剤添付文書より抜粋、詳細は添付文書をご参照ください。



幼児
7歳未満

「お薬だから」と、水または白湯(さゆ)で飲めるよう教えましょう。味やおいが苦手でどうしても飲めない場合は下記を参考に。

小児
15歳未満

飲み方・飲ませ方の工夫

- 1 服薬補助ゼリーを使ったり、オブラートに包んで服用。



- 2 ジュースやゼリー、ヨーグルトに混ぜたり、チョコレート(風味)や甘味を加えたりする。*



* ジュースや牛乳(乳製品)などは、薬のはたらきに影響を与えることがあり、一般に、薬と一緒に飲むことを避けた方がよいと言われています。ただし、味が苦手などの理由で薬が飲めない子どもには、飲ませることを優先する対応も必要です。また、ヨーグルトに含まれる酸味や乳脂肪分には、味を感じさせなくする効果が期待できます。

注意

薬・食物・植物などのアレルギーの有無、湿疹などの既往症を、必ず確認しましょう。

それまでは特にアレルギーがなくても、そのときの状態や体質によって、植物(生薬)などに反応し、過敏症やアレルギーを起こす場合もあります。服用中は症状の経過にご注意ください。



漢方薬服用中の症状の経過や反応には注意しましょう！

乳児～小児の成長過程では、個々の体格・体質の差もあり、薬の服用中の反応もさまざまです。特に乳児は、成人と比較して病気の経過がはやいため、風邪や下痢などの急性疾患には気をつけましょう。

漢方薬について、わからないこと・不安なこと・疑問点などは、医師・薬剤師に。